

(様式1)

令和2年3月30日

宮津市議会議長 北 仲 篤 様

会 派 名 公明党

代表者名 松浦 登美義

政務活動費 調査研究(視察)報告書

- 1 視察年月日 令和元年10月7日(月)～10月9日(水)
- 2 視察先・項目 富山県南砺市(富山県南砺市荒木1550)
・市営バス なんバス運行について

新潟県妙高市(新潟県妙高市栄町5-1)
・健康条例・健康増進計画について

長野県中野市(長野県中野市三好町1-3-19)
・道の駅ふるさと豊田(指定管理)運営について
- 3 参加者氏名 松 浦 登美義 松 本 隆 以上 2名
- 4 経 費 109,171 円
- 5 添付資料 視察研修行程表・資料(別添のとおり)

政務活動費 調査研究(視察)報告書

10月7日(月)

視察項目・【南砺市】 市営バス なんバス運行について

1 視察目的

オンデマンド運行形態、市直営運行の運転手の雇用形態及び民間委託運行などの状況について視察する。

1. 南砺市の地域交通の状況

南砺市は富山県西部に位置しており、広範囲の平野部と山間地からなる。平成の大合併で平成16年11月に8町村が合併し現在の市が誕生した。

従来の町村バスは、市内8地域間の連携が取れておらず、通勤や通学時間に対応しきれていないなど、さまざまな課題があったことから、高校生の通学の足の確保や高齢者などの通院・買い物の利便性の強化、また、公共交通機関相互の連携強化などに重点をおいた路線再編が必要であった。

2. 視察内容

市町村合併後の効率的なコミュニティバス運行を実現するため、平成17年度に「南砺市総合公共交通計画検討委員会」を設置、同委員会は「南砺市総合公共交通計画」を策定し、平成18年9月にはコミュニティバスの実証実験を行っている。この実証実験を元にして各路線の修正を行い、平成19年4月から本格運営を実施している。

運賃は、消費税率10%に伴い、令和元年10月1日から1乗車、大人(中学生以上)210円、(小学生・障がいをお持ちの方)100円、1日券として、大人41円、小学生等100円、また、回数券(13枚つづり)が大人2,090円、小学生等1,040円となっている。

なんバス路線は全部で21設置しており、内17路線は平日運行のみであった。尚、一部でデマンドバス運行を実施しており、これに注目した。全体の時刻表の中に「デ」部分が記入され、前日までに電話予約があった場合に、当該のバス停まで運行するというものである。今後においては、より効率的な運行を図るため、利用率の低い区間については、予約があった場合のみ指定のバス停へ運行するデマンド化の検討や当日の数時間前でも予約があれば対応できるよう改善していきたいとのことであった。



オンデマンド運行形態及び利用状況では、利賀地域の上利賀方面、百瀬方面は9時から15時30分まで終日オンデマンド運行を実施しており、利用を希望される方は行政センターに予約の電話をし、当日当該のバス停間のみ運行することになっている。

また、市営9路線運行の運転手の雇用形態及び運行状況では、なんバスの運行業務は、区域ごとに4社へ全て委託されていた。

また、自由乗降は実施していないが、安全を最優先として直近のバス停から近すぎず、安全を確保できる場所であり、地元から要望があれば随時バス停を新設している。

ルートについては、JR駅・病院・ショッピングセンター・温泉施設等を経由できるように設定され、主要施設等を経由しない路線については、乗り継ぎ利用等ができるよう考慮されていた。「なんバスの見直し」ということでは、福祉施設や公共施設利用者等の乗降が見込まれる場合や、市営バスのルートの一部変更、または、既存ルート上にバス停を新設することで、新たな利用に取り組むことを目指している。

ダイヤについては、朝夕の通学・帰宅時間帯や、病院への通院・見舞等に利用しやすい設定に努められていた。

考察・検証・成果等

【松本 隆】

宮津市も人口減少と高齢化が進み地域の力が低迷する中、地域間を結ぶバス運行は欠くことができないものであり、「運転免許証の返納者や高齢弱者などの通院・買い物の利便性強化とともに、たとえば、前日の利用申し込みがある場合でも対応できる等、地域住民に適合した持続可能な運行の構築が求められる。

【松浦登美義】

地域の声を聴きながら利便性向上に努められている。また、シルバーパスの5,090円で購入から1年間乗り放題や70歳以上で運転免許証の自主返納された方にシルバーパスの引換券3年分か、バスの回数券15,000円分の回数券、もしくは15,000円相当分のタクシー利用券から1点お渡しされている。宮津市も、高齢になっても移動しやすい取組など検討が必要である。

視察項目・【妙高市】 健康条例・健康増進計画について

1. 視察目的

妙高市の「元氣いきいき健康条例」の制定による計画の推進及び効果について視察する。

2. 視察内容

妙高市の「元氣いきいき健康条例」制定の経緯については、現在の少子高齢化・人口減少時代において、「生涯現役」、「いつまでも元気でいる」ことが重要であり、市民の健康づくりは市民の自己責任のもと、「自分の健康は自分で守り、つくる」意識を持ち、自分でできることは自分で行い、自ら健康づくりに取り組む必要があることを強調している。

当市では生活習慣病に起因する疾病が増加するとともに、今後も生活習慣病予備軍や介護を必要とする人の増加が見込まれており、発病予防や重症化予防を進めていく必要があることから、市民、事務所等を巻き込み行政と一体となった健康づくり運動を展開していく必要があると考えた。

条例制定において、副市長を先頭に「健康づくり推進協議会」及び「条例検討委員会」を設置しパブリックコメントなど開催して進められ平成25年に制定した。

今後の高齢化に伴う介護予防は大きな課題であることから、生活習慣予防と介護予防を重点に置き、その推進のための場として森林セラピーロード、温泉など自然資源、総合体育館をはじめとする各種運動施設等への活用をしている。

また、毎年地域から選ばれる健康づくりリーダーや食生活改善推進員等を中心に、人口の推移や健康実態等を周知していく中で、歯も痛くならなかったら病院に行かなかったような人でも「自分の健康は自分で守り、つくる」意識が高まりつつあるとしている。



条例制定による効果については、生活習慣病予防と介護予防に特化して取り組んだ結果、がんの死亡率や検診の有所見率、介護認定率等の数値に大きな変化は見られないものの、すこやかプラン21（健康増進計画）の目標値である「健康寿命の延伸」について毎年伸びており、「医療費の削減」についても、生活習慣病に係る費用額が減少傾向にあり、医療費全体の伸び率の抑制につながっている。

また、健康条例とすこやかプラン21（健康増進計画）との関係については、健康条例はすこやかプラン21を推進するための基本的な考え方を示しており、条例に基づく具体的な施策を展開していくために、行政の庁内関係課による健康づくり推進会議及び関係課長会議、また、市民の代表からなる健康づくり推進協議会において、毎年第2次すこやかライフプラン21の進行管理と歩く効果がどの程度あるのかなど、それらの評価を行っている。

すこやかライフプラン21の特徴については、生活習慣病やがんなどの疾病予防対策により一層の充実強化が求められる中、健康日本21（第2次）の基本的な方向を踏ま

え、健康寿命の延伸と医療費削減を目指し、市民が「自分の健康は自分で守り、つくる」の意識を持ちながら主体的に健康づくりを実践できるよう支援するとともに、生活習慣病予防に重点をおいた基本計画としている。

一方で、医療費の推移では、平成28年と30年を比較した場合、国民健康保険の総医療費については、高齢化等の影響から1人当たりの医療は上昇しており、新潟県平均に比べても高い状況にある。

今後の課題としては、すこやかライフプラン21は9つの分野を定め推進を図っているが、特に中間評価時には「がん」「栄養・食生活」「身体活動・運動」について結果が伴わなかったことから、これらの3つを重点に地域コミュニティや各事業等と一体的に取り組んでいく必要があるとのことであった。

参考・検証・成果等

【松本 隆】

妙高市の「元氣いきいき健康条例の目的」でもある「生活習慣病を予防し介護予防を進める」とあるように、健康寿命の延伸について毎年伸びている点、そのことで医療費の削減につながり、生活習慣病に係る費用額の減少に結びついていることから、この条例を制定したことの意味があると認識した。また、条例の第2条3項では、「事業者 市内において事業を営む個人又は法人その他の団体で、従業員を雇用しているものをいう。」とあるが、健康づくりの取り組みの中でも、市内に住んでいる人だけでなく、事業所や学校に通学する人たち、市民活動団体等で活動する人たちも一緒に健康づくりを進めていくことの重要性を考え、市内に居住する者又は市内で働く者、学ぶものもしくは活動する者と明記してあることが特徴的であった。

また改善点については、小学生の朝食の欠食が多い、肥満が多いなど上げられ、食生活を改めることとして、子どもを持つ働き盛りの家庭における朝食の定着率の向上、また、運動習慣の励行として、市役所内でもラジオ体操をされたり、週2回の30分運動の取り組みをされている。

このような妙高市で進めている取り組みが、宮津市でも不可能ではないと思うので、さらに健康活動の促進とともに健康寿命の延伸を進められたい。

【松浦登美義】

市民や地域コミュニティ、事業所、市それぞれの立場での責務や役割を明確にし、お互いに連携しながら協働して健康づくりを推進しておられ、市民の代表からなる健康づくり推進協議会において、健康増進に関する課題の共有と課題解決のための方策等について幅広く意見や提案を求め、各事業所や団体等においても同様に取り組みを推進してもらえるような仕組みを作っておられる。そうした事から、条例制定による効果が毎年あらわれている。宮津市も参考になる取組である。

視察項目・【中野市】道の駅ふるさと豊田（指定管理）運営について

1. 視察目的：指定管理を受けて行っている「道の駅ふるさと豊田」の経営及び運営状況等について視察する。

2. 視察内容

豊田村に位置する道の駅ふるさと豊田は、上信越自動車道と豊田飯田ICより北側の400mに位置し、信州の北の玄関口として、田園風景が静かな地にあたる。地域とともに個性豊かなふれあいの場と、人と人、人と地域の交流により、地域が持つ魅力を知ってもらい、地域振興が図れるよう、人、歴史、文化、風景、産物等の地域に関する各種情報及び道路網の情報提供等に力を入れている。



道の駅ふるさと豊田の経営と運営状況については、平成9年に株式会社豊田の設立と豊田村の指定管理を受け10月5日から、道の駅ふるさと豊田の営業を行い、平成23年7月1日に株式会社豊田と株式会社斑尾が統合し、株式会社斑尾と改められ、道の駅ふるさと豊田と中野市温泉公園もみじ荘、中野市体験交流施設まだらの湯を併せた3つの施設の事業展開を行っている。現在、中野市豊田温泉公園もみじ荘の指定管理が平成31年3月31日で終了したことから令和元年4月1日からは、2施設の営業を行っており、市からの支出については、施設トイレの建設は県で行い、管理は市で持ち、指定管理である（株）斑尾に委ねている。企業収益は市の方に還元する分はなく場所代もとっていない。あくまでも地域の活性化のために行っている。

また、株式会社斑尾組織としては、株主（5団体）、中野市JAながの農業協同組合・永田財産区・斑尾開発推進協議会・信州中野商工会議所で構成され、20名の職員が従事されている。道の駅内の食堂では、広い間取りのゆったりとくつろげるお食事処になっており、農産物直売所と連携することで食材の安全と安心の供給とともに味にとことんこだわり、四季によって旬の食材を利用した郷土料理や創作的料理を提供していた。また、売店や直売所では、山菜、野菜、果物など販売しており、地元菓子舗



の手作り菓子や地元職人による手作り工芸品なども駅内に並んでいた。株式会社斑尾の運営の中で、道の駅ふるさと豊田の状況では、平成9年の設立年度において売上総利益43,684,044円、当期純利益1,642,413円であったのが、平成30年度では、売上総利益46,457,742円、当期純利益5,458,507円と実績を上げている。また、道の駅で運営する食堂・売店・

直売所の利用者数が、平成30年度で171,031人と毎年度増えおり、食堂利用者では地元利用者が約2割で、市外の利用者が約8割である。また、売店では、地元利用者が約2～3割、市外の利用者が約7～8割を占めており、直売所の利用では、地元の利用者が約1割、市外の利用者が約9割と予測をしている。

参考・検証・成果等

【松本 隆】

運営状況について、(株)斑尾の平成30年度決算では、「もみじ荘」と「ふるさと交流館」は黒字になっているが、「まだらおの湯」については赤字となり、3施設合わせた純利益が366万円の赤字決算になっていることから、その利用と運営の難しさを感じる。また、利用者の関係では、市外の利用者が7～8割を占めるが、外国人の客層がないことに、本市で進める観光客や外国人の客層をメインとした道の駅の考え方ではなしに、地元市内・市外の利用者で地域のにぎわい創出に活かす道の駅の取り組みとして盛況ぶりを感じた。

また、食堂が広い間取りで100人相当に対応できるようになっており、利用者の視点として席の数だけ入込があると見られるため、目標としている入込利用者に合わせた食堂スペースの空間が必要と感じた。

また、駅内に並ぶ売り物の品数では、四季によって品数が変わり悩みの種になるが、地産地消・6次産業化による山菜加工品や搾りたてジュース、季節の漬物など工夫して並んでいた。

本市の道の駅でも駅内に売り出す物として、さらにオリジナルの特産品の提供が望まれるとともに産業や観光といった地域の拠点としての役割（道の駅）になるよう期待する。

【松浦登美義】

市の指定管理の考え方は、収益については市への還元は企業努力であり求めている。地域の活性化、地域が元に、地域が稼いでいただく。ことが大事との理念で進めておられおられ大事な視点と共感しました。本市においても、道の駅などで一次産業の方の稼げる地域になるよう更なる施策の取組が必要である。